

新年 賀 謹



多古町長

菅澤 英毅

新年明けましておめでとございます。

町民の皆様方には、輝かしい二〇一二年の新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年も皆様方のご支援をいただき、町政運営を精力的に進めさせていただきました。

平成23年度を初年度とする多古町総合計画では、長い歴史の中で培ってきた自然との調和、人と人との調和、農・工・商の産業の調和を保ち、活気に満ちたまちづくりのため「人・文化・自然 みんなでつくる 潤いのまち 多古」を将来像に掲げました。今回、計画の策定にあたっては総合計画が単に行政の計画ではなく、より町民の期待に添えるような生活を実現してい

くため、公募による「まちづくりワークショップ」や「まちづくり懇談会」の開催で策定段階から町民参加・協働による実現性の高い計画となるよう成果指針を定めました。行政と町民が一体になり実現させるため全力で取り組んでおります。

先の東日本大震災の原発事故による被害は、本町の農産物へも影響を及ぼし、米の放射性物質の検査では予備調査を実施する14都県の中で、本町が最も早く実施したため注目を浴びました。本調査を含めすべて「検出せず」の結果には胸を撫で下ろしました。

今後も「町民に開かれた町政」をモットーに、行政のスリム化と効率化に配慮し、町の特徴を積極的に創出すべく努力するとともに、多古台まちづくりの促進や子育て充実のための幼保一体化「総合施設」の建設、圏央道の早期着工・完成を強く国等に要望し、スポーツ広場や図書館など社会教育施設の整備を図りながら、町民一人ひとりが誇りと愛着を持ち続けることができ

るまちづくりに積極的に取り組んでまいります。町民の皆様はますますのご多幸を心からご祈念申し上げます。新春のごあいさつとさせていただきます。

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、東日本大震災という想定外の天災や福島第一原発の事故などに見舞われましたが、「がんばれ日本」を合言葉に世界から温かいご支援をいただいたところがあります。国民あげて再起復興に取り組み、わが町でも対応しているところがあります。

少子高齢化社会の中、町では安心して子供を産み、育てることのできる環境づくりを考え「こども園」の計画に着手し、地域の皆様方のご理解とご協力をお願いしているところです。また成田空港との共存共栄の

観点から、世界のハブ空港へ向けての第一歩として年間発着回数30万回を認め、同時離着陸にも理解を示すとともに、騒音下の環境対策を強く要望しているところです。

多古台につきましては、国の計画している羽田・成田間50分台、都心・成田間30分台の短絡線や空港シャトルバスを利用して、都心と多古間を1時間以内の通勤圏内になるよう努力を重ねると共に、中学3年生までの医療費助成制度など生活環境の良さを加え、多古台開発に力を注ぐべきと考えます。圏央道につきましても芝山町と一体となって早期着手に議会決議文を添え、関係機関に強く要望しているところです。また空港周辺の主要地方道県道成田松尾線も平成25年に完成予定となり、空港東側の開発も視野に入ってくると考えられます。さらに病院医師の充足、高齢者への福祉の充実、TPPに係る農業問題、教育、環境整備など町と一体となり住む人の立場に立ち、町民の望みを叶える努力を惜しまないものであります。

本年も町民の皆様方が健康で、発展の年であることを願って新年のあいさついたします。



多古町議会議長

加瀬 芳廣